

# 葉ごぼう

—— 発病・加害時期  
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
無加温半促成 トンネル早熟 普通		ハウス↑ 収穫	↑ 被覆							● は種			↑
うどんこ病 黒条病 黒斑細菌 黒斑 ネキリムシ アブラムシ ハウスモンヨトウ				—	—	—	—				—	—	—

## うどんこ病

### 留意事項

- 1 ハウス栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- 2 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- 3 QoI剤(11)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
- 4 アミスター20フロアブルは、浸透性を高める展着剤を加用しない(薬害)。
- 5 イオウフロアブルは、高温時の散布は薬害を生じる恐れがあるので注意する。

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 密植を避け、間引きは早めに行い、風通しを良くする。
- 3 窒素質肥料の多用を避ける。
- 4 被害葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) (11) 【2,000倍 21日/1回】
  - ・ [ハーモメイト水溶剤](#) (NC) 【野菜類 800~1,000倍 前日/—】
  - ・ [ジーファイン水和剤](#) (NC) (M1) 【野菜類(除なす) 750~1,000倍 前日/—】
  - ・ [サンクリスタル乳剤](#) (—)
    - 【野菜類(除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく) 300~600倍 前日/—】
  - ・ [イオウフロアブル](#) (M2)
    - 【野菜類(除すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちご) 500~1,000倍 発病前~発病初期/—】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 菌核病

### 留意事項

- 1 気温20℃前後、多湿条件で発生が多い。
- 2 菌核が土中に残って伝染源となる。

### 防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 ハウス栽培では換気に努める。
- 3 夏期たん水して、土中で越冬している菌核を腐敗させる。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ロブルール水和剤](#) 2 【1,000倍 30日／2回】

## 黒条病

### 留意事項

- 1 気温15～20℃、多湿条件で、葉面の濡れ時間が1日以上の時、発生が多い。

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 ハウス栽培では換気に努める。
- 3 過度な密植は避け、過繁茂とならないよう窒素質肥料の多用を避ける。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ラリー水和剤](#) 3 【4,000倍 21日／2回】

## 黒斑細菌病

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 被害葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 窒素質肥料の多用を避ける。
- 4 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [Zボルドー](#) M1 【野菜類 500倍 —／—】

## 黒斑病

### 留意事項

- 1 長雨は発病を助長する。

### 防除方法

- 1 連作を避け、まめ科、なす科及びうり科作物以外との輪作を行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 被害葉は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

## ネキリムシ類

### 留意事項

- 1 日中よりも、ネキリムシ類の活動する夕方に施用する。

### 防除方法

- 1 被害を認めたら速やかに下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ネキリエースK](#) 1 B 【3kg/10a 土壌表面株元処理 は種時～子葉展開期/2回】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は2回以内（但し、は種時の全面土壌混和は1回以内、生育期の株元は1回以内）。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を葉裏を中心に散布する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) 4 A  
【6kg/10a 全面土壌混和 は種時/1回】  
【6kg/10a 株元散布 生育期（21日）/1回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【3,000倍 14日/2回】
  - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 4 A 【4,000倍 14日/2回】
  - ・ [粘着くん液剤](#) - 【野菜類 100倍 前日/ー】
  - ・ [サンクリスタル乳剤](#) -  
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく） 300倍 前日/ー】

## ハスモンヨトウ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2,000倍 7日/3回】
  - ・ [ノーモルト乳剤](#) 1 5 【2,000倍 14日/2回】
  - ・ [BT剤](#) 1 1 A （Ⅸ野菜類の病害虫 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。